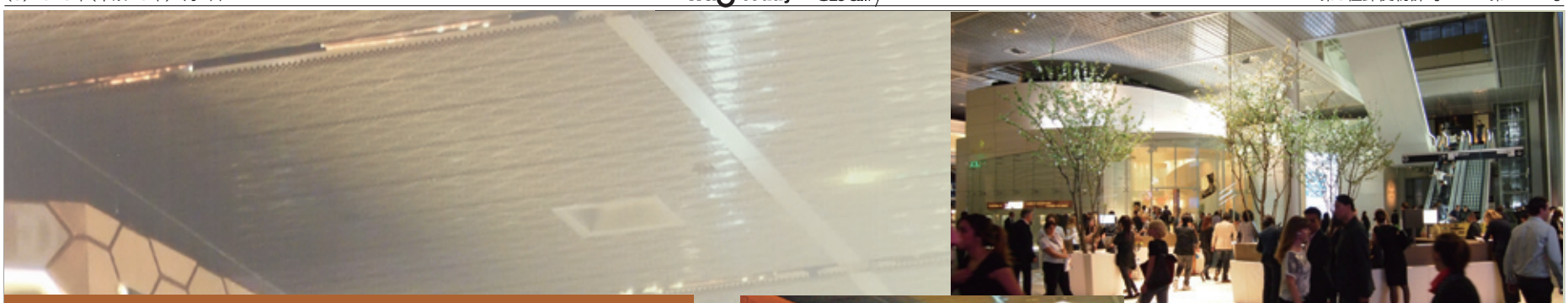


BASEL WORLD 2013

新しい扉を開いたバーゼルワールド

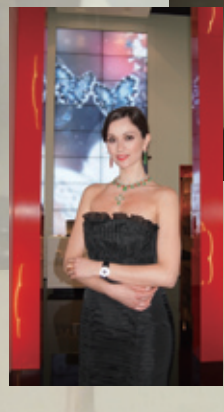
出展社と共に協力しあうことで、未来への継承へとつないだ

今年、新たな歴史の扉を開くかのように会場を一新したバーゼルワールドが、グランドオープンした。これからの新しい10年に向け、大幅にブース位置を変更。新たに入れ替えたブランドをメインホールに揃えて、満を持してのオープニングとなった。

会期8日間を終え、来場者数は昨対比17%増の12万2000人。驚異的な集客力を見せた。また、プレスのための見本市と位置付けた世界最大級の時計宝飾見本市として相応しく、世界中からプレスが3610人集まった。こうして出展社と来場者、そしてプレスのそれぞれが、スケールアップしての見逃せない結果を収めてはいるが、これは単純なことではなく想像を絶する話し合いの中、それぞれが協力しての結果であろう。

そして、バーゼルワールド全体が新しくなったかのようであるが、その中でも歴史を誇るパテックフィリップは、ブース位置も外観も昨年となにひとつ変えなかった。はじめから先を見越したブース作りや商品作りをしていると言っているかのように、新しくなった会場にあってもブランドの歴史を誇示するかのような堂々とした雰囲気をブースが醸し出していた。

それを裏付けるかのように、新作コレクションでは、技術力を披露するかのようにムーブメントのみならず外装にも力を注ぎ、ブランド力を高めた作品が多く登場した。このようにブランド力を高めるかのような新作発表が、今年の傾向のひとつであったと言えよう。

これからは、ファッションやデザイン、トレンド等だけでなく、こうしたビジネス志向なども見習わなければ、今後日本の良さは世界で出し切れない。日本をリードするだけでなく、世界をリードすることが必要で、もっと世界を巻き込む力を注ぐことが重要となるだろう。いつの時代も、世界の一流を見て感じ、日本でそれを超える一流を根付かせてこそ、産業の発展となる。言い換えればマーケットの拡大に繋がる。

想像以上に、世界の変わりゆく変化は早く、日本にいては追いつけないかもしれない。日本がどのように成長していくのか…今後、益々楽しみになったバーゼルワールドである。